



今泉地区 コミュニティだより

地域の広報紙

第33号

2023年3月1日

発行/今泉地区

コミュニティ協議会

編集/総務委員会

印刷/下野印刷(株)



未来を語ろう

『まちづくり懇談会』開催

4年に1度、市長が地域を訪れ、住民と意見を交換する『まちづくり懇談会』が、11月29日、今泉地域コミュニティセンター会議室にて開催されました。駅東口の再開発、2023年8月のLRTの開業と、大変革の時を迎えた今泉地区の未来について意見が交わされました。

まず、今泉地区コミュニティ協議会 大森幹夫会長が挨拶に立ち、「ネットワーク型コンパクトシティ(※次ページ左上)を目指す宇都宮市において、地域としては、LRTの開業を待ちに待っている状況です。本日は、今泉地区の未来はどんなものなの?ということをみんなで考える会にしたいと思います」と述べました。

次に佐藤栄一宇都宮市長から、子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』(※次ページ左上)の実現に向けた、市の取組についての説明が行われ、「そのときになったら考える、では遅い。次世代を支える対策を今から始める」と話がありました。

(次ページに続く)

今泉の

未来を

考える



『まちづくり懇談会』概要

今泉地区では2018年以来、5回目の開催となった『まち懇』。ここでは、代表者による地域代表意見と自由討議の様子を抜粋してお伝えします。

地域代表意見(今泉PTA副会長)

小学校の校舎について

今泉小学校は児童数増加のため、校庭にプレハブ校舎を建てて対応している。校庭は狭くなり、運動会にも支障が出ている。今後、学区内にファミリータイプのマンションの建設が予想されること、さらに宮みらい地区から通学する児童が増えることも考えると、これら

らどうなるのか心配。体育館も含め小学校は地域の行事の場でもある。新しい駅東にふさわしい、また開校100周年にふさわしいものにしていく必要があるのではないか。

〈市長〉

未就学児数なども踏まえたうえで、当面は対応できると考える。今後は、マンション建設なども考慮に入れ、児童数を推計して慎重に見極めていく。限りある学校敷地をどのように使うかを考えなければならぬ。

他校の例では体育館の建て替え時に、バリアフリー化と同時に、1階はコミセン、2階は体育館などのよ



ライトキューブ宇都宮は帰宅困難者用の一時滞在施設として位置づけ、駅員や警察と協力し誘導し、指定管理者と市の責任で運営する。白楊高校やマロニエプラザは被災者用の一時避難所となっている。防災倉庫の不足については、校庭にある倉庫に一部余裕があるため、そのスペースの活用について、学校と調整していく。

以下、自由討議。

LRITの安全性について

LRITについて。レールにベビーカーやシルバーカーの車輪が挟まるのではないかと心配がある。レールの溝を狭くすることはできないかとも考えている。

〈市長〉

LRITは運転席からの視野が広いので危険に気づけずすぐに止めることになっている。レールの溝はJR線よりも狭い5センチ程度としたところである。自転車や自動車向けの新ルールが必要であり、教材を作り、教習所や免許更新の講習等でも周知を行う。

うな複合施設にしたところもある。地域にとつても使いやすい学校にするために、今後も検討する。

地域代表意見(育成会長)

通学路の安全対策について

LRIT工事の迂回のため周辺道路の車が増えたことで、通学路が危険になったことを心配している。特に気になるのは東口のロータリーに進入する車、元今泉4丁目のコンビニのある交差点や、東雲通りから白楊高校通りに入っていく車の増加だ。この状態でLRITが開業したらどうなるのか。児童生徒の安全のため、尽力してほしい。

〈市長〉

ご指摘の交差点への注意喚起の看板については、すぐに取り掛かる。東口のウツノミヤテラスの駐車場や周辺道路には一方通行、逆走注意を示す標識や表示をつけた。他の危険箇所も施設管理者と連携して運転者への注意喚起を行う。

通学路に関しては警察、地域、学校と協力して年1

鬼怒通りの景観について

6月の地域の景観づくりのワークショップに参加した。様々な提案がなされたが、今後どのように取り組んでいけばいいのか、また、提案に対する進捗状況を知りたい。助成金についても検討されているのか。

〈市長〉

景観づくりに関する地域の協議会を2023年1月に設立し、ワークショップの提案を議論する。景観形成重点地区の指定に向けた交付金(助成金)についても検討していく。

保育園について

共働きをしているが、希望する保育園に子どもを入れることができない。待機児童ゼロについても希望の園に



回の通学路点検を行っている。交通指導員の配置や、学校による立哨指導なども行っている。LRIT開業に伴う通勤手段の変更などの状況を注視しながら、関係機関と協力して安全対策に取り組む。

地域代表意見(防災委員長)

防災計画作成にあたって

現在、地区の防災計画を作成中だが、その中で考えるところをお伝えしたい。今泉地区では住民が増加しているが自治会への入会率が低下しており、防災情報の広報が難しくなっている。

災害発生時の一時避難所に収容する人数の不足も心配される。白楊高校やコンベンション施設(ライトキューブ宇都宮)の指定避難所の指定を望む。今泉地区と市の役割分担も知りたい。

また、現在の地域の備蓄では十分ではない。地区防災倉庫の増設を希望する。

〈市長〉

被災者数を推計して、市内148か所を一時避難所に指定しており、全員避難できる場所を確保している。



入れないケースは数に入っていない。駅東に住んでいるにもかかわらず、駅から遠い園に入れざるを得ない。

〈市長〉

国の定義で、待機児童とは複数の園を希望しながらこの園にも入れていない子どものことを意味する。できるだけ希望の園に入れるように調整しており、きょうだいで同じ園に入れるようにもした。今後も希望する園に入れるような環境づくりをしていく。

他に、駅東にもっと大きな市の出先機関がほしい、LRITの緊急時の連絡先を明らかにしてほしいなどの要望がありました。

最後に市長は「高齢者も経験を活かして、支えられる側ではなく支える側として活躍していただきたい」と話し、次世代につながる市政を行っていくと改めて強調しました。

夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ」

「スーパースマートシティ」とは...

100年先も発展し続けるまちの姿である「ネットワーク型コンパクトシティ」(NCC)(※1)を土台に、

地域経済循環社会 **地域共生社会** **脱炭素社会**

の3つの社会が、「人づくり」の取り組みや「デジタル技術」の活用によって発展する

「夢や希望がかなうまち」です。

宇都宮市は、「SDGs」(※2)の達成にも貢献できる2030年ごろのまちの姿としてスーパースマートシティを目指しているよ!

※1 ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)
中心市街地やそれぞれの地域拠点、産業、観光拠点にまちの機能を集約し、それらを利便性の高い公共交通などで連携した都市

※2 SDGs
地球全体で取り組む17の国際目標。

詳しくはこちら!
イラストやマンガで
分かりやすく掲載しているよ!

ほうさいきょうしつ 防災教室

12月3日
今泉小学校 土曜授業



協力:今泉地区防災会・防災委員会



避難所で使用されるものの展示

段ボールベッドって
丈夫なんだね



炊飯袋を使った炊き出し

作ってみたいな



防災グッズの説明

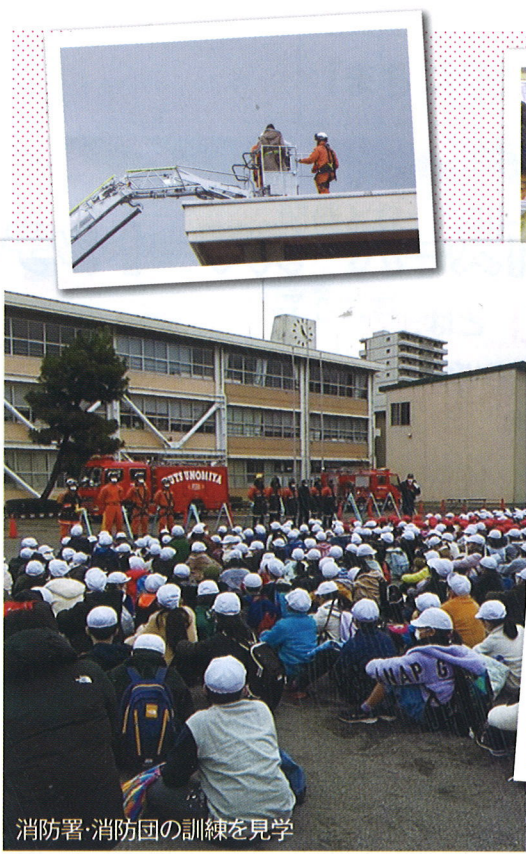


これ、本当にあった
出来事なの？

災害パネル展示



炊飯袋でアルミバコやパンも



消防署・消防団の訓練を見学

表彰

- ・栃木県民生委員児童委員協議会
会長表彰 田村しづ江
- ・栃木県警察 栃木県防犯協会
防犯功労団体表彰
宇都宮駅東交番防犯連絡会
- ・交通安全功労者 海老沼 秀
- ・栃木県警察本部長
栃木県交通安全協会 連名表彰
交通安全功労者 新部栄夫
交通安全功労団体 今泉南自治会
- ・宇都宮東警察署長
宇都宮東交通安全協会 連名表彰
交通安全功労者 鈴木栄子
交通安全功労団体 宿郷東自治会
- ・宇都宮市教育委員会
教育支援者感謝状 保坂 寿
※順不同・敬称略

今泉地区の行事報告

11月

27日 今子連 秋祭り

富士山神社隣の公園で、子ども会ごとに時間帯を分けるなど密を避ける対策を行い、様々なゲームをして楽しく過ごしました。



6日 駅東公園清掃美化活動

泉が丘中学校1年生と今泉小学校6年生が協力して、落ち葉清掃を行いました。



1月

9日 二十歳を祝う成人の集い

ライトキューブ宇都宮で、開業後初めて泉が丘中学校区の成人の集いが開催されました。



12月

3日 避難所開設運営訓練

小学校の防災教室と並行して、避難所開設を想定した地域の訓練が行われました。なお、午後に予定されていた地域の防災講座は、コロナの状況を鑑み中止となりました。

編集後記『自粛』『中止』の文字で塗りつぶされたような3年間でした。私たちも闘い方を覚え、少しずつ日常が戻ってきているように感じます。不安で窮屈な日々も、当たり前の日常のありがたさを身に染みて感じる時間だったのではないのでしょうか。大切なものを失った代わりに得るものも多かった…そのことを、この厄介なウイルスへのせめてものリベンジとして、良き学びにしたいと思ひます。(総務委員会)